

(3) 行政区

指定地に関連する両市の行政区について概観する。

1) 筑紫野市

指定地はコミュニティ区域[※]では御笠コミュニティに含まれ、活動の拠点施設は御笠コミュニティセンターである。小学校区は吉木小学校区、阿志岐小学校区である。また、御笠コミュニティは16行政区で構成される。指定地は大石区、本道寺区に含まれる。麓にはその他に原、柚須原、香園区があり、各集落は信仰上宝満山とつながりがある。これらの区は山林が多く面積は広いが、人口が少ない。

2) 太宰府市

太宰府市内は44の行政区に分かれており、指定地は内山区、北谷区に含まれる。小学校区は太宰府小学校区である。

筑紫野市と同様、山林を含む行政区であり、面積は広いが、人口は共に市全体の1%に満たない。

表 2-3 行政区の構成

市・行政区	世帯数	人口	構成比	面積	構成比
筑紫野市	45,072 世帯	103,916 人	100.00	87.73 km ²	100.00
御笠コミュニティ	4,103 世帯	9,845 人	9.47	24.87 km ²	28.35
原区	362 世帯	938 人	0.90	1.27 km ²	1.45
大石区	87 世帯	198 人	0.19	1.74 km ²	1.98
本道寺区	55 世帯	127 人	0.12	3.05 km ²	3.48
香園区	10 世帯	32 人	0.03	3.71 km ²	4.23
柚須原区	19 世帯	42 人	0.04	4.26 km ²	4.86
太宰府市	31,824 世帯	71,837 人	100.00	29.60 km ²	100.00
内山区	139 世帯	290 人	0.40	2.58 km ²	8.72
北谷区	167 世帯	375 人	0.52	4.10 km ²	13.85

R1/8/31 現在 人口

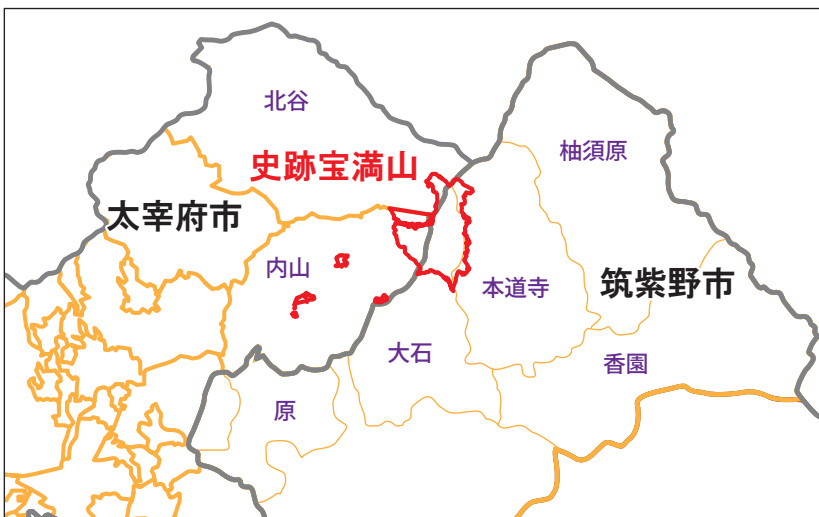


図 2-13 行政区・コミュニティ

※コミュニティ区域…筑紫野市は地域コミュニティによる協働のまちづくりを推進しており、市内7つの地域においてコミュニティ運営協議会を設けている。協議会は「公共団体」としての性格を有し、地域における様々な課題の解決にあたる組織として位置づけられている。

(4) 交通

1) 鉄道

筑紫野市には九州旅客鉄道(以下 JR)鹿児島本線、JR 筑豊本線、西日本鉄道(以下西鉄)天神大牟田線の3路線がある。JR 鹿児島本線は二日市駅、天拝山駅、原田駅、JR 筑豊本線は筑前山家駅、西鉄天神大牟田線は二日市駅、紫駅、朝倉街道駅、桜台駅、筑紫駅の9駅がある。

太宰府市には JR 鹿児島本線、西鉄天神大牟田線、西鉄太宰府線の3路線があり、JR 鹿児島本線は都府楼南駅、西鉄天神大牟田線は都府楼前駅、西鉄太宰府線は五条駅、太宰府駅の4駅がある。

各駅の一日平均乗降客数をみると、JR 二日市駅は7,550人、西鉄二日市駅は21,562人、西鉄太宰府駅は12,049人となっている。



図 2-14 鉄道路線図

2) 公共バス

筑紫野市では西鉄路線バスのほかに、市費による赤字補填、委託事業を行っている路線バスがあり、山口地区を走る「ちくしのバス」、二日市地区の一部や山家地区を走る「上西山線」、筑紫地区を走る「筑紫野線」が運行している。また、福祉の一環として、筑紫野市総合保健福祉センター「カミーリヤ」と市の公共施設を利用する方の交通手段を確保することを目的に「カミーリヤ巡回福祉バス」が市内5路線で運行している。また、カミーリヤを起点とし、西鉄筑紫駅西口、筑紫野市役所、JR二日市駅、二日市温泉を走る「筑紫野市コミュニティバス つくし号」、同じくカミーリヤを起点とし、原地区、柚須原地区へ向けて2路線を運行する「御笠自治会バス」がある。

太宰府市では西鉄路線バス、太宰府市コミュニティバス「まほろば号」、博多や福岡空港と太宰府間を運行する「太宰府ライナーバス旅人」がある。



図 2-15 公共バス路線図

3) 道路

筑紫野市側では九州自動車道、国道3号、国道200号、主要地方道筑紫野インター線、一般県道福岡日田線などの幹線道路が整備されており、九州自動車道には筑紫野インターチェンジが設置されている。

太宰府市側では九州自動車道、国道3号、福岡都市高速道路及び県道筑紫野・古賀線をはじめとする県道10路線があり、九州自動車道には太宰府インターチェンジ、福岡都市高速道路水城インターチェンジが設置されている。

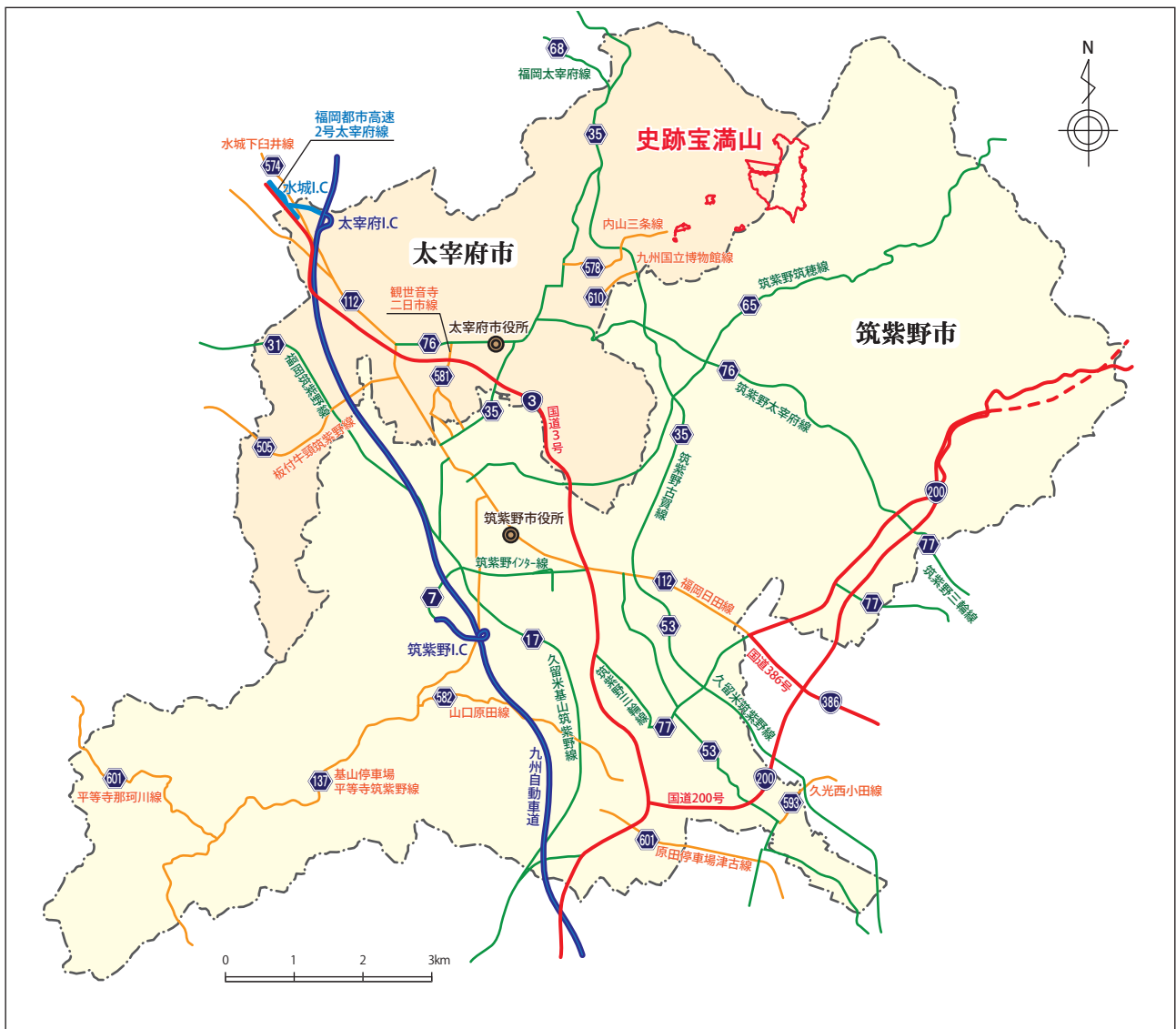


図 2-16 道路路線図

(5) 利用実態

宝満山の利用として、主に宝満山への登山、竈門神社への参拝、桜、紅葉シーズンの観光などが挙げられる。また、登山客の増加に伴い、山中での遭難も発生している。以下にその概要を示す。

1) 宝満山への登山客

宝満山への登山客数は年間7万人とも10万人とも言われ、県内でも1、2の登山客数の多い山である。正面登山道はよく整備されていること、山内には数カ所、水場があり、水を調達しやすいこと、頂上にはキャンプセンター、バイオトイレが設置されていることなどから、比較的登りやすい山であり、常に老若男女の姿が見られる。

登山ルートは主なもので13ルートがある。様々なルートごとに違った山の雰囲気、景色を楽しむことも人気の理由の一つである。また、宝満山は、民間の出版社による「九州百名山」に選定され、県内でのトレッキングの名所である「三郡縦走ルート」の南側の起点としても位置付けられている。これを目的に訪れた人がネットを使って画像配信するなどし、近年は遠方からの登山者が増加している。積雪や凍結した状況を好んで入山する登山者も見受けられ、元旦のご来光登山、中秋の月見登山等、夜を通して山が賑わうことも多い。

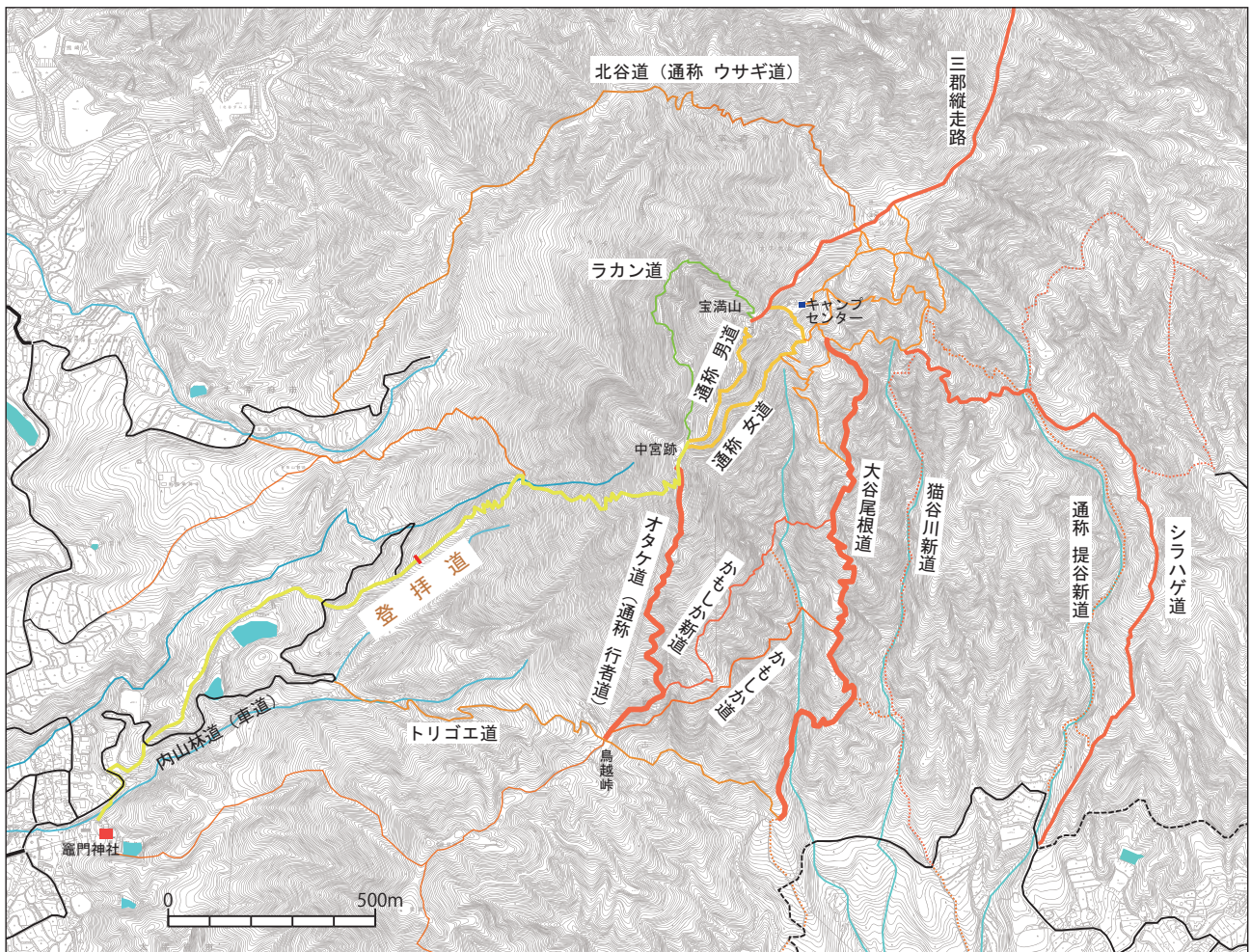


図 2-17 登山ルート図

2) 龍門神社への参拝客

下宮地区にある龍門神社は初詣、5月の宝満山入峰、春と秋のえんむすび大祭など年間を通して祭りが行われ、多くの参拝者が訪れている。特に春のさくら祭り、秋のもみじ祭りでは夜間ライトアップにより夜の参拝も賑わう。

また、境内には本殿、拝殿のほか、水鏡、再会の木(マメ科サイカチ)、愛敬の岩など良縁成就を願うスポットがある。再会の木は神功皇后が三韓出兵の際、宝満山山頂にサイカチの木を植えられ、凱旋ののちの再会を祈念したことに由来し、好きな人との再会や縁結び等を祈ればきっと叶うと言われている。また、愛敬の岩は目を閉じて、片方の岩からもう片方の岩まで無事歩ききれば恋が叶うと言われている。一度でたどり着ければ成就が早く、人にアドバイスを受けてたどり着いたときは、人の助けを借りれば恋が成就すると言われている。これらの縁結びのご利益を受けるため、近年女性の参拝者が急増している。宝満山中では座主跡近くに再会の木の巨木、座主跡から女道を下った薬師堂跡近くに愛敬の岩がある。



写真 2-36 龍門神社参拝の様子



写真 2-37 龍門神社 紅葉

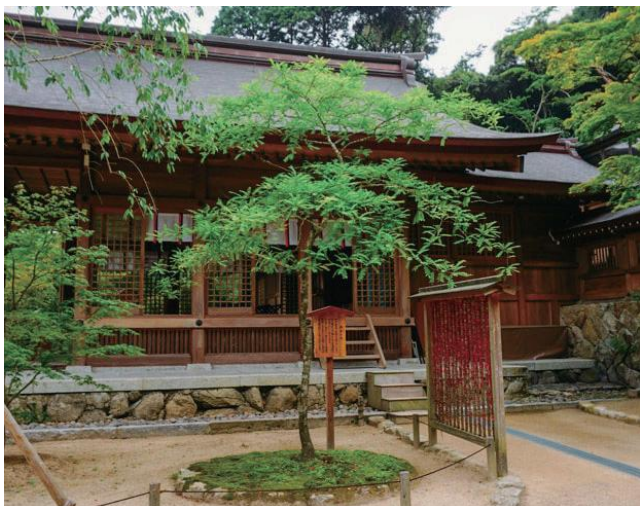


写真 2-38 再会の木 龍門神社境内

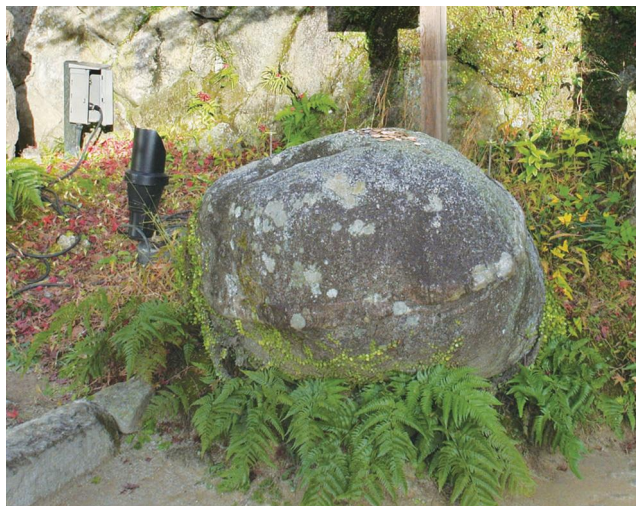


写真 2-39 愛敬の岩 龍門神社境内



写真 2-40 お札お守り授与所 龍門神社境内



写真 2-41 宝満山山頂から望むご来光

表 2-4 龍門神社参拝者数（平成 25～29 年度 年度別、月別） 龍門神社提供資料 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	19,000	21,000	17,000	13,000	26,000	39,000	43,000	100,000	38,000	137,000	50,000	45,800	548,800
H26年度	41,000	46,300	34,600	28,000	34,200	44,000	54,000	107,400	47,000	171,000	57,300	64,300	729,100
H27年度	52,000	51,600	28,500	28,900	34,800	42,500	48,400	116,400	66,700	165,000	60,000	67,050	761,850
H28年度	57,900	92,500	73,600	46,400	47,200	45,300	60,500	141,200	66,100	223,000	69,800	72,570	996,070
H29年度	60,200	57,000	43,200	40,500	47,400	38,800	43,400	137,000	57,500	174,900	47,600	77,190	824,690
月別平均	46,020	53,680	39,380	31,360	37,920	41,920	49,860	120,400	55,060	174,180	56,940	65,382	772,102

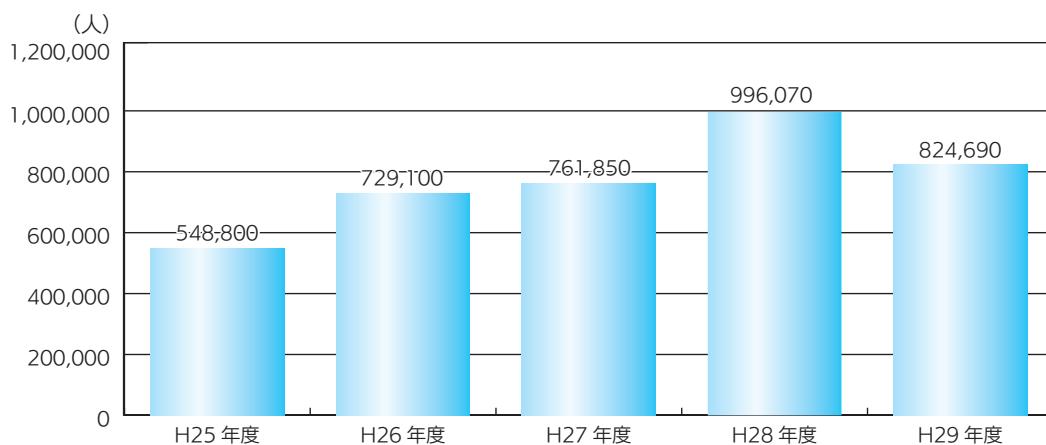


図 2-18 龍門神社年度別参拝者数（平成 25～29 年度） 龍門神社提供資料

3) 遭難者

登山者が山中で遭難事故にあうケースがここ 10 年ほどで常態化している。筑紫野太宰府消防本部が対応した過去の年間件数は、平成 25 年(2013)が 12 件、26 年(2014)が 9 件、27 年(2015)が 13 件、28 年(2016)が 11 件、29 年(2017)が 12 件であり、おおよそ毎月レスキューによる出動が続いている。発生案件には一定の傾向があり、登拝道の休堂跡から山頂手前までの間は転倒・負傷、疼痛、山頂付近の岩場周辺では滑落事故、山頂から東院谷地区では道迷い、下山不能

状況での通報が多い。また、全域で体調不良による歩行困難での救助要請が見られる。体調不良、転倒・負傷、疼痛は圧倒的に高齢者である傾向があり、道迷いは年齢層に関係なく経験不足や事前のルート確認不足や同伴者の不注意が原因とみられる。下山不能の状況は装備不足、知識不足が影響している。ある例では下山不能で不意の山中での野宿となり、植樹されたツクシシヤクナゲの枝を折って焚火した例なども報告されている。都市近郊の人気の山であるがゆえ、気軽な気持ちでの入山が遭難に至っていることが読み取れる。

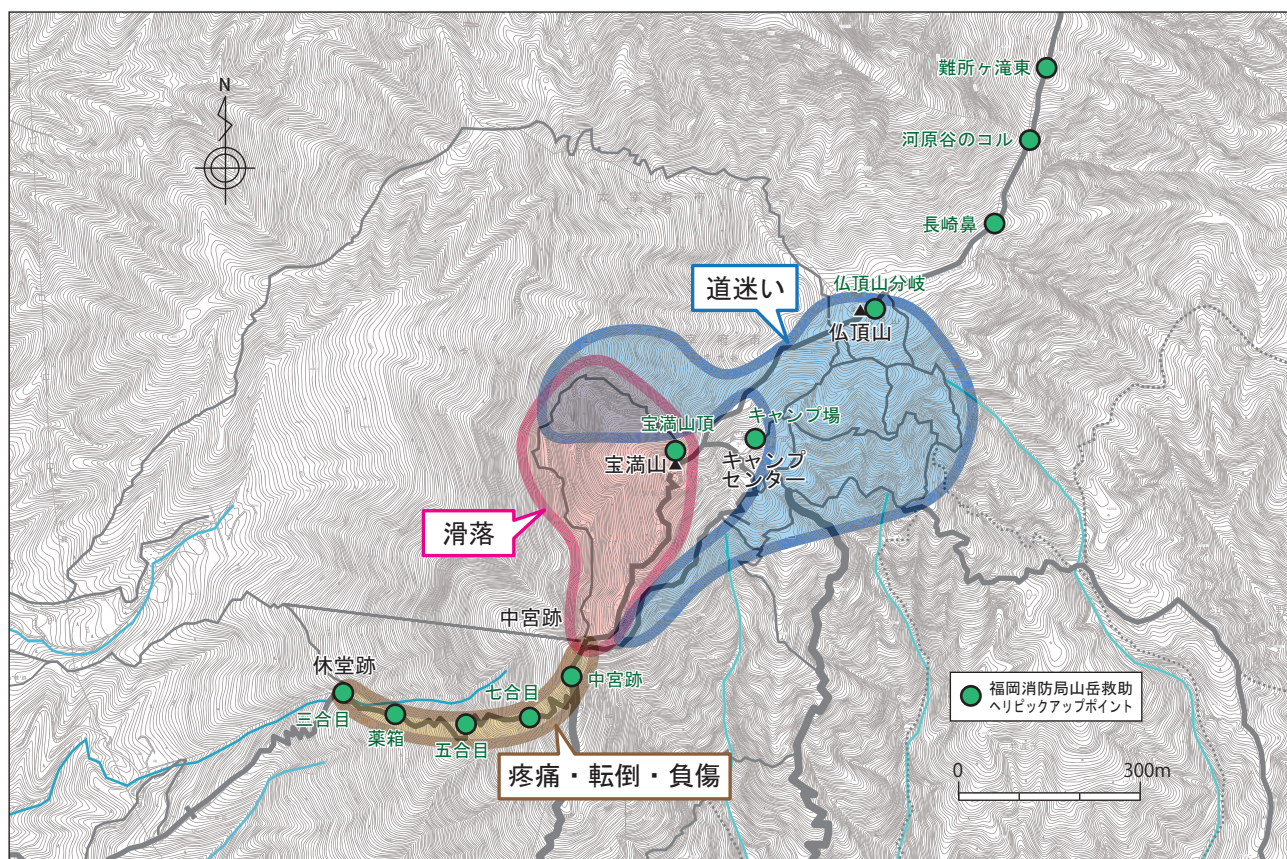


図 2-19 宝満山の主な種類別遭難出現傾向



写真 2-42 山頂付近の岩場（鎖場）



写真 2-43 登拝道に設置された薬箱